9.1　環境報告書の評価

宇部市総合政策部
連携共創推進課
課長　橋本 佳子

■ 第三者有識者のコメント

宇部市は山口大学と共に、古くは、公害克服の歴史を背景に地域の発展に向けて歩んでまいりました。特に2004年の包括的連携・協力に関する協定締結以降、地域産業、環境、まちづくり、人材育成など、「共創による持続可能なまちづくり」を基本に様々な分野において取組を進めているところであり、まずはこれまでのご貢献に対し謝意と敬意を表する次第です。このような背景のもと、この度、本報告書を「SDGｓ未来都市うべ」としての視点をもって拝読させていただきました。

1. 事業活動における環境負荷の低減に関して

外部要因により温室効果ガス排出量の微増はあるものの、エネルギー使用量については、前年度と比較し、単年度目標を超える原単位3.9%の低減や、光熱水費約3.5億円も削減された実績は、徹底した学内管理の成果であると評価いたします。

また、全学のエネルギー消費・費用の６割以上を占める小串キャンパスのＣ棟改修工事に個別空調方式や高効率空調機が導入されましたことは、医療機能の安定と環境負荷低減を両立させる極めて有効な施策です。

この環境負荷の低減については、近年の異常気象下において、今後、いずれの事業所においても、エネルギー効率化と職場環境改善の両立が課題となることも見込まれることから、大学独自の先駆的な対策にも注目しています。

2. 地域連携とSDGs達成に向けた取組

産学公金連携による山口大学グリーン社会推進研究会の活動は、山口県・宇部市の産業特性がもたらす課題の解決にとって、技術面から重要です。

また、ロボット研究部をはじめとする学生の自主活動は、地域の子どもたちにイノベーションの刺激を与え、これらは、SDGｓ目標4「質の高い教育」や目標9「産業と技術革新」の解決に通じて、地域との協調・連携を促進するものです。このような活動に自ら参加し、積極的に取り組まれる学生の存在は、自治体として非常に心強い限りです。

「日本一学生が活躍するまちづくり」を目指す宇部市として、こうした大学の知と若い力が「持続可能なまちづくり」を牽引していくことを今後も期待しております。

3. 総括

今回の報告書においては、一部には未達成の目標も見られますが、全体を通して目前の課題と向き合い、具体的な行動によって着実に改善され、また、研究成果の社会還元と地域に根差した環境教育の調和と、新たな価値の創出に繋げられている点が確認できました。

宇部市としましては、山口大学とのパートナーシップをより一層深め、本市が取り組む企業登録制度や補助金制度なども推進しながら、環境分野に限らず、今後とも「共創」を基本に山口大学と共に地域課題の解決に取り組みます。

※宇部市公式ウェブサイト：宇部市ＳＤＧｓ「持続可能なまちづくりに向けて」
https://www.city.ube.yamaguchi.jp/shisei/keikaku/sdgs/index.html

9.2　編集後記

■ 環境責任者のコメント



国立大学法人　山口大学
環境責任者
財務･施設担当副学長
田上 雄一朗

環境省の2025年度評価報告書（2026.2）では、気候変動を「将来の予測」ではなく、気候変動を生命を脅かす「現存する危機」と断じています。既に水稲の品質低下や熱中症死者の急増、激甚化する水害が「特に重大」な段階に達しており、将来気温が3～4℃上昇すれば、砂浜の最大96%が消失し、数百万人が洪水リスクに晒されると予測されています。分野を越えた連鎖的・複合的な社会崩壊が現実味を帯びる中適応策の断行は待ったなしであり、社会全体での早期の意思決定と行動変容が急務です。さらに、国際情勢の悪化によるエネルギー不安や化石資源への逆戻りも懸念され、これらは私たちの生活に直結する課題として迫っています。

このような厳しい情勢のなか、地域社会の持続可能性を支える大学の役割はますます大きくなっています。温室効果ガス排出量は、第4期中期計画（2027年度まで）の目標38%減に対し、2013年度比で34.4%の削減実績と着実に前進しています。さらに、学内の意識改革や地道な取り組みにより、エネギー使用量は原単位で前年度比3.9%の削減を達成しました。

また、4月に「情報学部」新設と「工学部」再編を実施しました。研究面ではグリーン社会推進研究会に「半導体・情報応用部会」を新設し、半導体分野の研究開発を推進しています。産学公の緊密な連携をさらに深め、脱炭素やデジタル社会に貢献する先端技術の創出と高度専門人材の育成に貢献してまいります。

なお、環境報告書の評価では、第三者有識者として「宇部市（総合政策部 連携共創推進課）」の橋本佳子 課長に依頼しました。宇部市におかれましては、連携共創の推進、高等教育機関・企業等との連携協定、広域行政、宇部市SDGs「持続可能なまちづくりに向けて」等、地域振興のため幅広い活動を推進されています。本学では、地域課題解決に貢献できるパートナーとして、協力関係を築いていきたいと思います。

山口大学では、地域に根差し世界に羽ばたく「知の拠点」として、自治体や企業と連携し、持続可能な地域社会の構築のため、地域課題の解決に寄与してまいります。特に気候変動への対策を重視し、脱炭素社会の実現に向けた研究や、気象災害への適応策としての防災技術開発に注力します。豊かな自然と歴史に囲まれた環境で、地球規模の視点を持って未来を切り拓く、社会貢献への志が高い人材を育成してまいりますので、皆様のご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。